



規準？基準？ ルーブリックどうつくる？

両方とも「ひょうかじゅん」と読むのに役割が違い、どっちがどっちだったか私はこんがらがってしまいます。いわゆる、「規準（のりじゅん）」と「基準（もとじゅん）」何が違うのでしょうか？

評価規準は、「何を評価するか（観点）」を示し、具体的な到達像として表したものです。評価基準は、ルーブリックのようにどのレベルならA評価、B評価になるか各段階の違いを表したものになります。

| 観点 | 評価規準(のり) | 評価基準(もと) |
|------------|------------------|--|
| 何を表す？ | 何を評価するか(目標となる姿) | どのレベルならA・B・Cか |
| 役割 | 見るポイント(観点) | 判定するための段階(レベル) |
| 中身 | 身につける力・内容 | A・B・Cの違い(でき方の差) |
| 例(算数) | わり算の筆算を正確に計算できる | A: 正確に計算でき、さらに説明もできる B: 正確に計算できる C: 計算できない |
| ルーブリックでの位置 | 行(観点)になる(目標となる姿) | 列(A・B・Cの段階)になる |
| イメージ | 「何を見る？」 | 「どこまでできた？」 |

たとえば、算数では計算の技能を見取るのか、説明する力を見取るのか、何を見るのかと言う観点を決めることが大切になります。このように、何を見るかという観点を評価規準といい、その具体的な到達度像として「計算の手順を言葉や式で説明できる」などの形で表します。この評価規準をもとに、判定するための段階を決めたのが「評価基準」です。ルーブリックは、「評価規準（何を見るか）」と「評価基準（どの程度できたか）」を組み合わせ示したものです。

観点:説明する力 具体的な到達度像:「計算の手順を言葉や式で説明できる」

| 評価 | 具体的な姿 |
|----|----------------------------------|
| A | 計算の手順や理由(なぜそうするか)を相手に分かるように説明できる |
| B | 計算の手順を言葉や式で説明できる |
| C | 計算の手順を説明することができない |

授業の導入で、「B評価はこれだから、どんなことまでできたらA評価になるかな？」と子どもたちと作成するとより効果的ですね。

🍎 私は、こう作っています！～ルーブリック表作成の手順～ 🍎

①評価規準を設定し、具体的な到達度像を明確に

ルーブリック表を作成する際に、まずは評価規準を設定し、具体的な到達度像を明確にします。

②各段階の違いを設定

具体的な到達度像を上回る姿(A評価)、到達できない姿(C評価)を評価基準として段階ごとに設定すると、ルーブリック表が作成しやすくなります。

※ここでは、B評価を「具体的な到達度像」として説明しましたが、必ずしもB評価＝評価規準というわけではありません。4段階のこともあります。授業者が「どの姿を到達目標(評価規準)とするか」を明確にもっておくことが大切です。ルーブリック表では分かるように、太線などで表されていることもあります。